



授業の流れシート

<p>単元名 (+教科書名)</p>	<p>見ぬ世の人の世界を知ろう「儀兵衛と五兵衛」 教材は自作 (「稲むらの火」小学国語讀本 尋常科用 昭和12年 文部省) (『濱口梧陵傳』 大正9年 杉村広太郎編纂 平成28年 広川町教育委員会 が現代語訳をして発行) など</p>
<p>対象学年</p>	<p>中学1年生</p>
<p>授業実施日</p>	<p>2020年12月</p>
<p>事前の準備</p>	<p>資料の収集(上記二つの教材に加え、資料として、以下のものを用意し、該当部分を教材化した。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「濱口梧陵と「稲むらの火」」和歌山県有田郡 稲むらの火の館パンフレット ・『小泉八雲 西洋脱出の夢』広川祐弘 1981 新潮社 ・『「稲むらの火」の文化史』府川源一郎 1999 久山社 <p>さらに、図書館には、「稲むらの火」関係の図書、津波・地震・防災関係の書籍を目立つように置いてもらった。なお、実際に生徒が資料を探し始めてから、老人に関する本や、脳に関する本なども置いてもらった。</p> 
<p>これまでの授業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「稲むらの火」と事実『濱口梧陵傳』を比較し、違いを発見する。 ・班(4人)ごとに、「違い(課題)」を一つ選び、なぜそのような違いが生まれたのか、仮説を立てる。 ・仮説に沿って、作品自体からわかる「内なる根拠」と、作品以外の事柄から分かる「外なる根拠」を探することを説明する。 ・「外なる根拠」を家で探せる人は探してくる。公立図書館で本を借りてくる、インターネットで検索し、参考になるものが見つかったら、プリントアウトしてくるなど。 

<p>当日の内容</p>	<p>導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 班ごとに話し合い、仮説を立て、結論を出す。模造紙を書く人、内なる根拠を探す人、外なる根拠を探す人を分担し、並行して取り組めるようにする。 <p>展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外なる根拠の目当てをつけ、それを探す人を、班から一人を代表として学校図書館に「派遣」する。これは、漫然と本を探すのではなく、目的を持って探すため、班で話し合わせ、責任を持って探すよう、代表者を「派遣」するのである。新型コロナウイルス感染症対策のため図書館に行く人数を制限する目的もある。少人数ならば、レファレンスもしやすい。 ・ 学校図書館で、図書館司書に質問をして、資料となるものを探す。 ・ 図書館司書には、生徒が何を求めているか聞いてもらい、それらの資料がどの分類にあてはまるのか、書棚を紹介してもらおう。その書棚から自分が探しているものを探させるようにする。百科事典や辞書類も積極的に紹介してもらおう。 ・ 本がない場合は、どのようなサイトを見れば良いか、紹介してもらおう。 ・ 対象となる本を借りてくる。教室に戻ったら、班での話し合いに資料を提供する。不十分であれば、再度図書館に行く。 <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 模造紙にまとめる。配付用プリントをまとめる。
<p>このあとの授業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模造紙と配付用プリントを完成する。 ・ 班ごとに5分間ずつ発表する。また、その後に質疑応答の時間を取る。 ・ 発表後、評論文を書く。 <p>* 引用文献、参考文献の書き方を再度指導する。</p> <p>(左は配付プリント。右は模造紙を利用した発表の様子。)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="432 1429 799 1973"> </div> <div data-bbox="995 1420 1406 1964"> </div> </div>
<p>シート記入者名</p>	<p>愛甲修子</p>

